

平成 29 年 12 月 1 日

京口門だより No. 50

ドイツでは早やクリスマス商戦が昨年のテロを乗り越えて始まったとニュースで報じていました。わが国の近くでは無謀な試みを仕掛ける国の領主がいます。年の瀬にかけてよけいに気ぜわしく感じます。『山の湯にひとり首立て十二月』(岡田日郎)といきたいものですが、そうもいきません。

今年は風邪をひくことが多く、それを引き金にいろいろな病気をおこしてきます。耳の病気に「耳管狭窄症」や「耳管開放症」という病気があります。耳管というのは、耳の中耳(鼓膜の前にある空気を含んだ管腔)と口の中の咽頭部に通ずる管です。普通は開いたり閉じたりして、鼓膜と外耳の気圧のバランスをとっています。息を吸ったり、ものを飲みこんだりするときには耳管は開きます。

ちょうど飛行機やエレベーターや新幹線でトンネルに入ったときなど、気圧の変化で耳が塞がったときに、唾をのみこむと治ることで、耳管の働きを知ることができます。しかし、咽頭炎や扁桃炎あるいは鼻炎などが続くと、この耳管に炎症が起こり、耳管の粘膜が腫れて「耳管炎」や「耳管狭窄症」を起こしてきます。すると、一時的な耳の塞がりではなく、持続的な耳の塞がりが生じ、音が聞こえにくくなったり、耳鳴りがしたり、自分の声がこもってひびいてくるといった症状が生じます。「耳管開放症」というのは、通常閉じている耳管が何らかの原因で、開きっぱなしになることを言います。自分の声が強く聞こえたり、呼吸する音も聞こえたり、耳が塞がる感覚も起こります。内耳の病気である突発性難聴やメニエール病でも、ときにこの耳管狭窄や耳管開放に似た症状を起こすことがあります。

このような耳管狭窄症や耳管開放症の症状は、おもに耳管の粘膜や周囲の炎症による腫れから起こってくるものです。漢方では柴蘇飲という薬が大変有効です。この薬は耳管やその周囲の炎症を治し、耳管の通りをよくする作用があります。また同時に鍼治療を併用すると効果が上がります。その人の病状に合った治療を行うことによって、こうした耳管の病気を治すことができます。難聴や耳鳴りがあると聞こえなくなるのではないかと心配して、耳鼻科での治療を受けられることもあるでしょうが、なかなかうまく治らないこともあり、漢方治療でよくなることもしばしばです。

